

奈良のシルクロード(横大路)と高田御坊の探訪

案内人: 会員No.2774 重野忠史

日本書紀、推古天皇21年(614)に「難波より京に大道を置く」とあり、難波津と飛鳥、藤原京を結ぶ大道、即ち古代の国道一号線として、遣隋使を初め、隋や唐からの外交使節が往来し異文化を伝えた道が横大路である。中世の高田は、横大路に面した高田城を中心に発展し、慶長5年高田御坊専立寺建立後は、その寺内町へ領主桑山氏が近郊から商人を集め、門前町として繁栄した。

横大路は、初瀬街道や伊勢街道に繋がり、近世には、お伊勢参り(おかげ参り)の群衆が訪れ、大和高田はその接待場としても栄えた。

18世紀後半には、大和木綿業の中心地となり、木綿問屋が数多く集まり、この伝統は、明治29年発足の「大和紡績」の発足から「大日本紡績」→ユニチカ(昭和52年閉鎖)と受け継がれた。

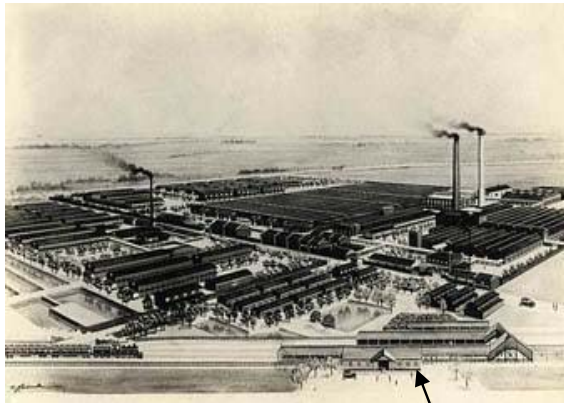
今回の探訪は、大和高田の、こうした歴史の足跡を訪ねた。

探訪コース	近鉄大阪線大和高田駅→天神社→馬冷池公園→高田御坊寺内町、専立寺→大中公園(昼食) (昼食後)→横大路:長谷本寺→辻甚→道路元標→常光寺→高田城跡→太神宮高燈籠→龍王宮 →おかげ参り施行図壁画→近鉄南大阪線 高田市駅 解散(約5km)
-------	---



旧大和紡績レンガ造り工場(東京駅等を設計した辰野金吾が設計)をイメージして建てられた近鉄大和高田駅駅舎
なんとなく、東京駅の雰囲気が一——
大衆劇場:弁天座や高田側川付け替え後の埋め立ての中央道路などを見ながらJR高田駅へ

JR高田駅階段から在りし日の大和紡績工場群を想う



国鉄高田駅と専用引込み線

大和高田の総氏神 天神社

境内に高田城主當麻参河守藤原為政命の神社他あり。



梅田雲濱顕彰碑

福井県小浜出身の尊王攘夷派の志士 長州藩と交易に尽力



天神橋の擬宝珠:

旧高田川(現中央通り)に架かっていた天神橋
高田川(花内川)付替
昭和7年から12年間要す。
昭和23年河川跡
埋立道路化



不動院(馬冷池。さざんかホール)



古川橋擬宝珠と太神宮石燈籠



市町(寺内裏町)の太神宮 - I



市町(寺内裏町)の太神宮 - II



駒繫ぎ輪のある豪商(木綿問屋)の旧家(杉本家、村島家)や、中川家、片岡家等 歴史ある旧家が軒を並べていました。



本町通り(寺内表町) 専立寺 (集合写真)



慶長5年(1600)浄土真宗本願寺派第12世の准如により開山
高田御坊寺内町、門前町を形成
背割り配置の町並み
天保10年(1839)失火の為、表門、鼓楼、築地塀以外本堂など焼失

専立寺前 森川商店

大正末期の洋風建物:昭和50年頃まで南都銀行



旧家: 當麻家

文化年間(1804-1818)に築造

旧家: 中川印刷所:



江戸時代: 奥田屋。大和木綿業、
明治33年印刷業
明治40年月刊「敷島」創刊、
石川啄木や与謝野晶子が投稿





静御前の記念碑
生母「礒野禪尼」の故郷の礒野(いその)で余生を送った
ここの桜が3分咲き

桜華殿: 桜の頃ライトアップ。
静御前の舞や金春流能が舞われる。

高田川堤防の桜満開まで
2週間は早かった！！
惜しい！

横大路説明板と長谷本寺 道標



長谷本寺: はせもとじ
和銅養老年間(708~715)
に開基
ちょうど、平城遷都(710)
の頃です。
本尊十一面観音(長谷寺型)

辻甚: 横大路と下街道の交差点に立つ旅籠
創業400年を越える。

現在は老舗高級料亭&結婚式場

日本庭園が素晴らしい(当日は定休日で見られず) **雑倉橋付近の太神宮石燈籠**



道路元標
大正11年下街道
(大和郡山から五條)
と初瀬街道の交差点
に設置



常光寺: 常光寺池の西で中世は高田城内にあった。
開基は當麻為長



當麻為長の墓



地蔵堂横に井原西鶴の
好色五人女のモデル:
八百屋お七(志ち)の墓



當麻氏の家紋: 菊一文字



高田城址

「高田城跡 ばかり残る 思や幾年たったやら」野口有情



旭北町高燈籠: 樺原方面遠くから灯りが見えて、宿場の
高田へ到着安堵の燈台であった。



石園坐多久虫玉神社: 童王宮: 祈雨、農耕神
紀元前549年 安寧天皇が片塩浮孔宮
で即位(『古事記』)



おかげ参り施行図絵馬の壁画
奈良芸術短大製作、
登場人物は町内店主似顔絵

童王宮の絵馬は火災で焼失